

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	盛岡南整備課	
施策	26	都市基盤施設の維持・強化	評価 責任者	金澤 隆	内線 7140
小施策	26-8	既成市街地の再整備	評価 シート 作成者	小笠原 雅彦	内線 7141

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
土地区画整理事業については、事業の見直しを行い、事業進捗を図るとともに、並行して、関連する狭あい道路解消や上下水道整備等の住環境改善を早期に進める必要がある。また、市街地再開発事業については、中心市街地活性化に資する施設整備が求められている。		既成市街地における公共施設等の整備改善を図るため土地区画整理事業や生活環境整備事業を実施するとともに、中心市街地における良好な市街地環境の創出や土地利用の適正化を図るため再開発事業を推進し、人がにぎわうまちづくりを進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
既成市街地, 太田・道明・都南中央地区の土地区画整理事業地区及び生活環境整備事業地区		土地と建物の再整備により生活環境の向上が図られる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 既成市街地に整備された拠点施設数(累計)	棟	↗	当初値 (H25) 8	R1目標値 11	R6目標値 13
			・(仮称)新盛岡バスセンター整備について、公民連携事業導入可能性調査結果を踏まえ、整備に係る基本方針を作成し、代理人である㈱盛岡地域交流センターと連携しながら、整備の方向性を検討した。	⇒	・(仮称)新盛岡バスセンター整備に向けた、公民連携導入可能性調査を実施し、公民連携事業として成立する可能性を確認し、㈱盛岡地域交流センターから事業の骨格となる(仮称)新盛岡バスセンター整備事業マスタープラン(案)が提案された。
<p>問題点</p>			<p>問題の要因分析</p>		
<p>・優良建築物等整備事業は、補助金の1/2は市の一般財源からの支出であり、複数地区の同時施行は実施できない状況である。</p>			<p>・近年、補助金交付額が大きく上昇している。事業費の上昇よりも補助金額の上昇が大きくなっており、建物解体費及び補償金が増加していることが要因と考えられる。</p>		
指標② 面整備による生活環境整備率(整備済路線延長/整備計画路線延長)	%	↗	当初値 (H25) 29.0	R1目標値 63.0	R6目標値 97.0
			・整備済み延長が増加した。 ・上下水道等の住環境整備や宅地造成が進み、住宅や店舗等が建設された。 ・定住人口が増加した。 ・市街地の再整備が進んだ。	⇒	・土地区画整理事業や生活環境整備事業の実施により、良好な生活環境整備や企業の事業整備の進捗が図られたことが要因と考える。
<p>問題点</p>			<p>問題の要因分析</p>		
<p>・進捗が遅れている。</p>			<p>・必要とする予算の安定的な確保が困難となっている。</p>		

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
<p>★ (仮称)新盛岡バスセンター整備基本計画を策定し、計画に基づき、テナント、設計・建設事業者の選定を行う。</p> <p>★ 優良建築物等整備事業のあり方等について、立地適正化計画の策定期間に合わせて見直しを行う。</p> <p>☆1 (仮称)新盛岡バスセンターの設計及び建設に着手する。</p>	
<p>★ 確実な予算確保のため国や県への要望活動や新たな財源の検討等を引き続き行う。</p> <p>★ 工法や換地設計の見直しなどによる事業費の圧縮等による実効性のある事業計画へ変更する。</p> <p>☆1 長期中断移転の解消を進められるよう、その原因となっている交渉難航者の移転手法及び交渉方法について検討する。</p>	